資料 6-3

総合評価結果（案）

1. 最終候補地選定フロー

三次候補地の３箇所に対して総合評価を行い、各候補地を比較することで最終処分場の建設において総合的に優位性が高い１箇所を最終候補地として選定する。最終候補地の選定フローを図１に示す。

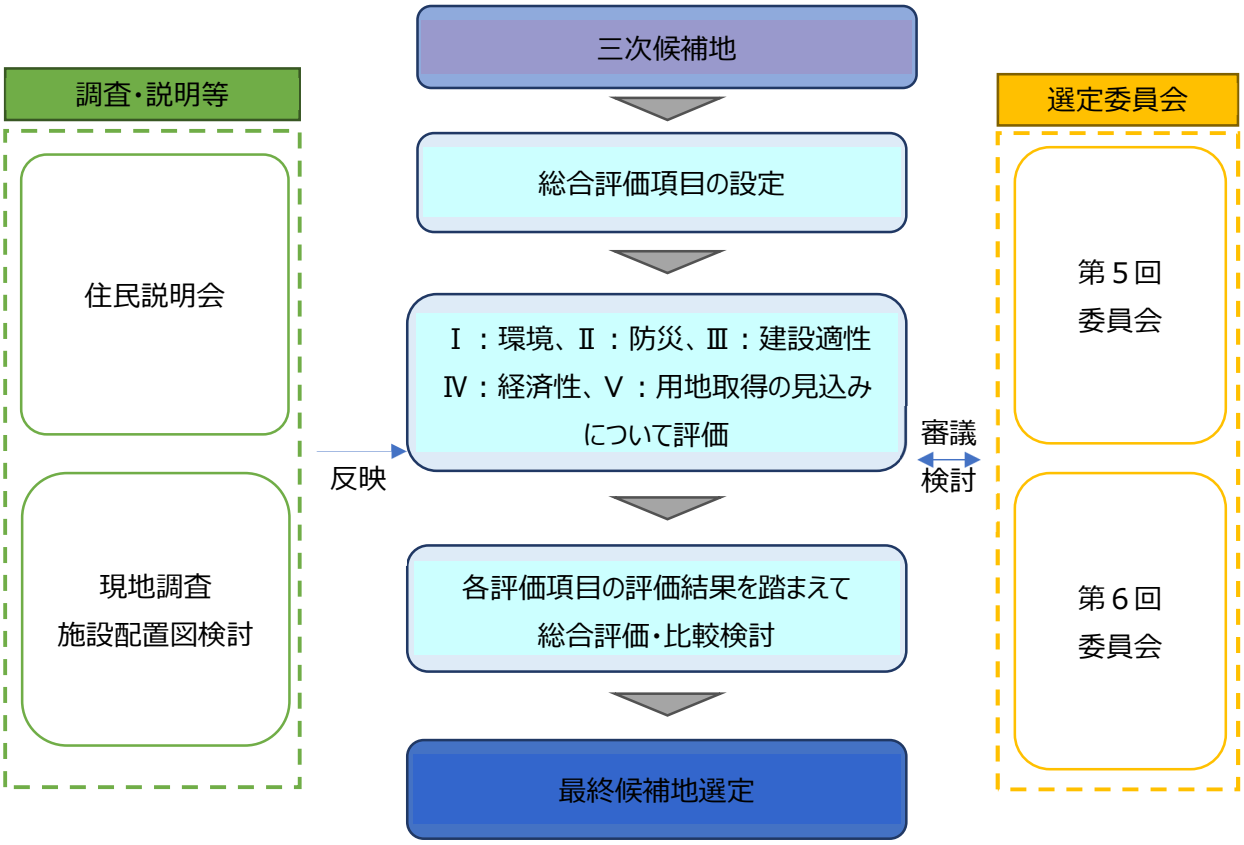


図 1　最終候補地選定フロー

2. 総合評価項目及び評価基準

第５回検討委員会において、三次選定からの評価項目を基に総合評価項目を設定した。表１に総合評価項目を示す。

総合評価項目は、環境、防災、建設適性、経済性、用地取得の見込みの５項目とする。環境、防災、建設適性は最終処分場候補地としての適性を評価する。経済性は各候補地の事業費を相対的に比較する。用地取得の見込みは、住民説明会やアンケート結果により評価する。

表 1　総合評価項目（第５回委員会決定事項）

分類	総合評価項目	評価基準	【細目】評価内容
Ⅰ：環境	**周辺状況** （土地利用、民家の存在、公共施設、交通、景観） 及び**環境影響** （自然環境、大気、騒音振動、悪臭、二酸化炭素排出量） 【10 点】	A：課題がほとんどなく、特筆すべき優位性がある。 B：課題が少なく、その課題も対応可能である。 C：課題があるが、対応可能である。 D：課題が多いが対応が可能である。 E：課題が多く、対応困難な課題がある。	◆ 土地利用状況、周辺民家、近隣の公共施設に関する基礎データを収集（施設配置図に基づき重点的に調査） ◆ 公共施設から候補地までの距離を設定し、大気、騒音振動、悪臭の影響（最終処分場の稼働、廃棄物運搬車両による影響）を予測評価 ◆ 周辺民家から候補地までの距離を設定し、大気、騒音振動、悪臭の影響（最終処分場の稼働、廃棄物運搬車両による影響）を予測評価 ◆ 道路や民家からの最終処分場の見え方（景観）を予測評価 ◆ 廃棄物運搬車両の通行ルートを設定し、幹線道路の渋滞を予測評価 ◆ 最終処分場の建設による自然環境への影響を評価 ◆ 廃棄物運搬車両の通行による二酸化炭素排出量を予測評価
	水 （河川、地下水） 【10 点】		◆ 浸出水処理水の放流先を設定し、河川水質に与える影響を予測評価 ◆ 最終処分場の存在により、地下水や下流の水道水源に与える影響を評価
Ⅱ：防災	**自然災害による影響** （土砂災害警戒区域等、浸水想定区域） 【10 点】		◆ 土砂災害警戒区域等の該当状況を調査し、最終処分場の損壊の可能性や発災時における交通網の状況等を評価 ◆ 浸水想定区域の該当状況を調査し、最終処分場の損壊の可能性や発災時における交通網の状況等を評価
Ⅲ：建設適性	**造成の難易度、地質、搬入道路、幹線道路、施工性、埋立容量の確保** 【10 点】		施設配置図の詳細検討により、以下の項目における課題への対応策検討及び難易度を評価 ◆ 処分場の造成に関する課題 ◆ 地質的課題 ◆ 搬入道路の設置・工事に関する課題 ◆ 幹線道路への接続に関する課題 ◆ 建設工事における施工上の課題 ◆ 埋立容量の確保に関する課題
Ⅳ：経済性	**事業費** （概算工事費、調査費、維持管理費） 【10 点】	A：事業費が安価である B：事業費が比較的安価である C：事業費が標準程度である D：事業費が比較的高価である E：事業費が高価である	◆ 概算工事費、調査費、維持管理費を算出し、事業費として取りまとめる。
Ⅴ：用地取得の見込み		地域住民の最終処分場整備に関する意見やアンケート結果等をもって評価する。	

※A：10 点、B：7.5 点、C：5 点、D：2.5 点、E：0 点としⅠ～Ⅳの総合評価項目に対して点数化（50 点満点）を行う。
※総合評価で三次選定の評価から追加検討・影響の予測を行う項目

Ⅰ：環境、Ⅱ：防災、Ⅲ：建設適性の評価基準

各評価項目に対して、最終処分場候補地としての適性を評価する。

A：課題がほとんどなく、特筆すべき優位性がある。

B：課題が少なく、その課題も対応可能である。

C：課題があるが、対応可能である。

D：課題が多いが対応が可能である。

E：課題が多く、対応困難な課題がある。

Ⅳ：経済性の評価基準

各候補地の事業費について相対的に評価する。

A：事業費が安価である

B：事業費が比較的安価である

C：事業費が標準程度である

D：事業費が比較的高価である

E：事業費が高価である

Ⅴ：用地取得の見込みの評価基準

地域住民の最終処分場整備に関する意見やアンケート結果等をもって評価する。

3. 総合評価

総合評価は、現地調査結果に基づく施設計画や最終処分場整備による概略影響予測の結果を基に実施した。なお、概略影響予測はあくまで現段階での施設配置計画や県のホームページ等で公表されている環境モニタリング結果、現地確認結果を基に予測を行ったものである。

「候補地３　門川町大字門川尾末」の概要及び評価結果を表２～５に、「候補地１２　美郷町西郷田代」の概要及び評価結果を表６～表９に、「候補地１８　美郷町西郷田代」の概要及び評価結果を表１０～１３に示す。また、総合評価の比較表を表１４に示す。

表 2　候補地の概要（候補地３）

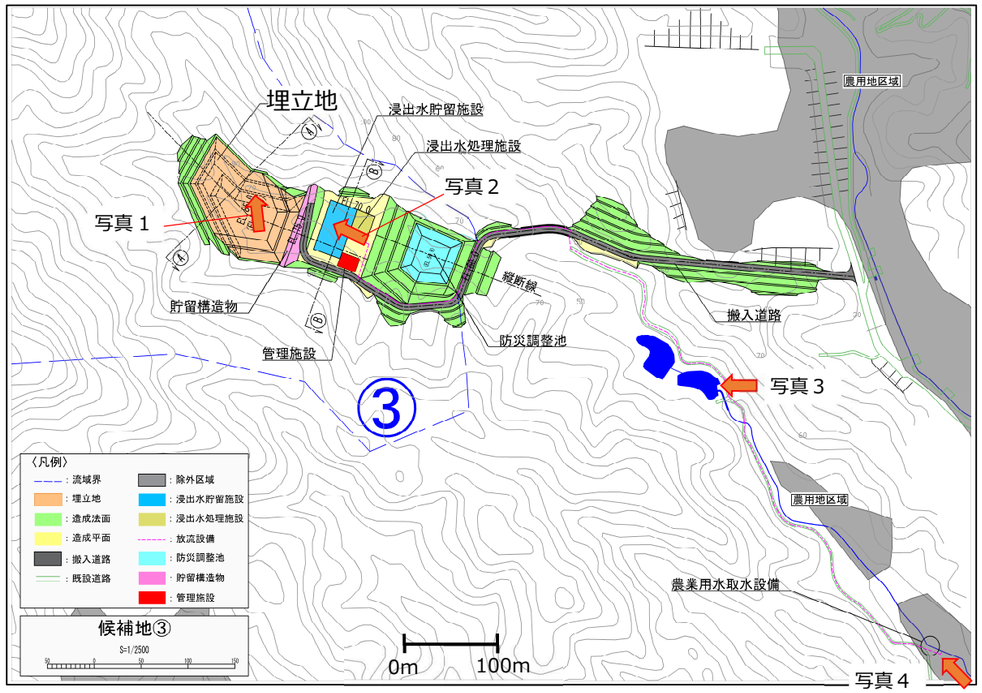
候補地 No.	3	
所在地	門川町大字門川尾末（竹名地区）	
候補地の位置・地形	位置	山地（丘陵地の谷部）
	地形	左岸の傾斜がやや急である。それ以外は全体的に緩やかな傾斜である。
土地利用状況	土地利用	植林地
	周辺民家	候補地南東 700m に集落が存在する。
	公共施設等	候補地の南側 1,750m にスポーツ施設が存在する。
周辺道路状況	幹線道路	広域農道（日豊グリーンライン）
その他	ホタルの生育を行っている溜池が存在する。 候補地下流に農地が広がっている。	
現地状況写真	 写真１：候補地内① 写真２：候補地内② 写真３：ホタルの溜池 写真４：農地	
施設配置計画図		

表 3　総合評価（候補地３　環境（周辺状況及び環境影響））

Ⅰ：環境		
周辺状況	土地利用	**ホタルの溜池に対して建設時に代替地の確保等の配慮が必要である。** • 周辺は山地である。 • ホタルの生育を行っている溜池が存在し、建設にあたっては代替地の検討を行う等、配慮する必要がある。（▲）
	民家の存在	**候補地の近隣に民家は存在しない。** • 候補地南東側 700m に集落が存在する。50 軒程度。
	公共施設	**候補地の近隣に公共施設は存在しない。** • 最も近い公共施設として候補地南側 1,750m にスポーツ施設が存在する。
	交通	**渋滞が起こる可能性は低いが、小学校横を廃棄物運搬車両が走行する。** • 供用後の廃棄物運搬車両の走行台数は 3 台／日と少なく、交通渋滞が発生する可能性は低い。 • 廃棄物運搬車両が五十鈴小学校の横を走行する。（▲）
	景観	**最終処分場建設による景観への影響は小さい。** • 沿道や集落から奥まった地点に建設されるため、代表的な眺望地点からの景観には変化がない。
環境影響	自然環境	**希少野生動物が存在する可能性があり、配慮が必要である。** • 候補地を含む半径 20km 圏内に希少野生動物（魚類、鳥類、チョウ類）が生息している可能性がある。存在する場合は代替地の整備や浸出水処理水放流先の変更などが必要となる。（▲）
	大気	**埋立作業や廃棄物運搬車両による大気質への影響は小さい。** • 埋立作業や廃棄物運搬車両の走行に伴う大気への影響は参考基準等を満足する。 • 現況からの増加分も少なく、最終処分場建設による影響は小さい。 項目 / 【最終処分場建設後の予測結果】近接する民家における濃度 / 参考基準等 降下ばいじん / 1.2 t/km^2/月 / 20 t/km^2/月 ※1 NOx / 現況 0.003ppm→建設後 0.003ppm / 0.04～0.06 ppm ※2 SPM / 現況 0.017mg/m^3→建設後 0.017mg/m^3 / 0.10 mg/m^3 ※3 ※1　「道路環境影響評価の技術手法　国土交通省国土技術政策総合研究所」にて示される、地域住民の中に不快、不健康感を訴える者が増加する目安の値。 ※2　1 時間値の 1 日平均値が 0.04～0.06ppm のゾーン以内又はそれ以下という環境基準値。 ※3　1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m^3 以下という環境基準値。
	騒音振動	**埋立作業や廃棄物運搬車両による騒音振動への影響は小さい。** • 埋立作業や廃棄物運搬車両の走行による騒音振動の予測結果は参考基準等を満足する。 • 現況からの増加分も少なく、最終処分場建設による影響は小さい。 項目 / 【最終処分場建設後の予測結果】近接する民家における騒音振動レベル / 参考基準等 騒音（施設稼働） / 現況 52 dB→建設後 52 dB / 55 dB ※1 騒音（運搬車両） / 現況 52 dB→建設後 55 dB / 65 dB ※2 振動（施設稼働） / 現況 30 dB 未満→建設後 30 dB 未満 / 65 dB ※3 振動（運搬車両） / 現況 30 dB 未満→建設後 30 dB 未満 / 65 dB ※4 ※1　一般環境における環境基準値。B 地域の昼間の値。 ※2　B 地域のうち、2 車線以上の斜線を有する道路に面する地域に係る昼間の環境基準値 ※3　振動規制法による特定工場・事業場の規制基準。第 1 種区域の昼間の基準値。 ※4　振動規制法による道路周辺の要請限度。第 1 種区域の昼間の値。
	悪臭	**埋立作業による悪臭の影響は小さい** • 悪臭が発生するような廃棄物を原則埋め立てない。 • 現処分場において悪臭の苦情は発生していないことから、次期広域最終処分場においても悪臭による影響は小さいと想定される。
	二酸化炭素排出量	**廃棄物運搬車両の走行による二酸化炭素排出量は少ない** • 廃棄物運搬車両の走行により、5.7t-CO_2/年の二酸化炭素排出となる。 • 門川町全体では 105,000t-CO_2/年、そのうち、自動車の走行による排出量は 35,000t-CO_2/年となっており、同町内の全自動車走行に対して廃棄物運搬車両の走行による二酸化炭素排出量は少ない。
評　価	B	■主な課題 • ホタルの溜池に対して代替地を設ける等の配慮が必要である。 • 廃棄物運搬車両が五十鈴小学校の横を走行する。 • 建設時に自然環境（希少野生動物）に対して配慮が必要である。

NOx:窒素酸化物のこと。大気汚染物質の一つであり、工場や車から排出される。
SPM：浮遊粒子状物質のこと。大気汚染物質の一つであり、大気中のすすや粉じん等を表す。

表 4　総合評価（候補地３　環境（水）、防災、建設適性）

<table>
<tr><th colspan="4">Ⅰ：環境</th></tr>
<tr><td rowspan="2">水</td><td>河川水</td><td colspan="2">放流水による河川水質への影響は小さいが、河川水が農業用水として利用されているため、放流先に配慮する必要がある。
•放流水による河川水質の予測結果は下表であり、現状から変動はなく影響が小さい。
<table><tr><th>項目</th><th>【最終処分場建設後の予測結果】
放流先河川</th><th>参考基準等※</th></tr><tr><td>BOD</td><td>現況 0.5mg/L→建設後 0.53mg/L</td><td>2 mg/L</td></tr><tr><td>SS</td><td>現況 1mg/L→建設後 1.05mg/L</td><td>25 mg/L</td></tr></table>※河川（A 類型）の環境基準値
•河川水が農業用水として利用されており、放流先を取水箇所（埋立地から 1.0km 先）の下流にする等の配慮が必要である。（▲）</td></tr>
<tr><td>地下水</td><td colspan="2">周囲に水道水源は存在しない。
•周辺に水道水源は存在しない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評　価</td><td>B</td><td>■主な課題
•　浸出水の放流先は農業用水の取水箇所を避ける必要がある。</td></tr>
<tr><th colspan="4">Ⅱ：防災</th></tr>
<tr><td rowspan="2">自然災害による影響</td><td>浸水想定区域</td><td colspan="2">候補地周辺は浸水想定区域に指定されていないが、運搬車両の走行ルートが過去に冠水している。
•五十鈴川の氾濫を想定した水害の浸水想定区域に含まれない。
•過去に廃棄物運搬車両の走行ルートが冠水している。（▲）</td></tr>
<tr><td>土砂災害</td><td colspan="2">候補地周辺は土砂災害警戒区域等に指定されておらず、影響は小さい。
•候補地周辺に土砂災害警戒区域等は存在しない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評　価</td><td>B</td><td>■主な課題
•　冠水により、廃棄物運搬車両の走行ルートが浸水するおそれがある。（▲）</td></tr>
<tr><th colspan="4">Ⅲ：建設適性</th></tr>
<tr><td colspan="2">造成の難易度</td><td colspan="2">斜面の傾斜がやや急であり、法面が大きくなる。
•　左岸側の斜面の傾斜がやや急であるため埋立地を形成する際に制約が生じ、北西の法面が大きくなる。（▲）</td></tr>
<tr><td colspan="2">地質</td><td colspan="2">埋立地や搬入道路の一部の掘削面は流れ盤となる可能性があるため、法面対策が必要となる
•　頁岩層で構成されており、風化により土砂化した表土は 0.2～0.5m 程度と薄い。斜面掘削時に風化部を除去する必要があるが除去量は多くない。
•　掘削面により流れ盤になる可能性がある。（▲）</td></tr>
<tr><td colspan="2">搬入道路</td><td colspan="2">搬入道路の取付の際に大きな造成が必要である。
•　幹線道路から約 410m の搬入道路の整備が必要となる。尾根及び沢を横断するため、比較的大きな造成を要する。（▲）
•　搬入道路を東西にとおすため北向きの法面が、流れ盤となる可能性が高く、グラウンドアンカー等の法面対策が必要となる。（▲）</td></tr>
<tr><td colspan="2">幹線道路</td><td colspan="2">幹線道路の整備は必要ない。
•　幹線道路は道路幅が確保されており、交通量も少ない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">施工性</td><td colspan="2">流域面積が広く、規模の大きい雨水・転流対策が必要である。
•　沢の縦断勾配は緩やかであり、重機・工事車両の場内での走行ルートを確保することは比較的容易である。流域面積が広いため、工事中の雨水・転流対策の規模が大きくなる。（▲）</td></tr>
<tr><td colspan="2">埋立容量の確保</td><td colspan="2">必要な埋立容量を確保可能である。
•　地形的に埋立容量の確保は容易である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価</td><td>C</td><td>■主な課題
•　埋立地の形状に制約が生じ、北西の法面が大きくなる。
•　北～北西側に傾斜しており、掘削面によって流れ盤となる可能性がある。
•　幹線道路から 410m の搬入道路の整備が必要となる。尾根及び沢を横断するため、比較的大きな造成を要する。
•　搬入道路の造成でグラウンドアンカー等の法面対策が必要となる。
•　流域面積が広く、工事中の雨水・転流対策が大規模となる。</td></tr>
</table>

表 5　総合評価（候補地３　経済性、用地取得の見込み）

<table>
<tr><th colspan="3">Ⅳ：経済性</th></tr>
<tr><td rowspan="3">事業費</td><td>概算工事費</td><td>•概算工事費は総計約 30.5 億円（埋立地 21.5 億円、浸出水処理施設 9.0 億円）となり、埋立容量 1m^3 あたり 5.4 万円である。</td></tr>
<tr><td>調　査　費</td><td>•調査費は測量調査、地質調査、生活環境影響調査業務等に係る費用で合計 2.0 億円である。</td></tr>
<tr><td>維持管理費</td><td>•維持管理費は埋立期間を 15 年として 19.4 億円である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価</td><td>C　•他の候補地と比較すると平均的な費用となる。（事業費合計 51.9 億円）</td></tr>
<tr><th colspan="3">Ⅴ：用地取得の見込み</th></tr>
<tr><td colspan="3">[住民説明会]
参加者は 24 名であった（説明会対象者 47 名のうち参加者 24 名、参加率 51%）。
「最終処分場の建設により、河川の氾濫が発生し、水田に影響があることを懸念する」、「農業に対する風評被害が心配である」、「下流の溜池を農業で使用している。最終処分場の建設により農業用水に影響が出ることが心配である」、「隣接する工場の騒音が大きい。この状態に廃棄物運搬車両が通行するとさらに騒音がひどくなることを懸念している」等の意見があった。
得られた意見に対して、「氾濫が発生しないよう、防災調整池を整備する」、「浸出水処理水の放流先を農業用水に影響の出ない場所で放流する」、「廃棄物運搬車両の台数は 3 台／日程度であり、騒音への影響は小さいと想定している」等を回答しているが、一部住民の理解を得ることはできなかった。
[アンケート調査]
各世帯にアンケート調査を実施し、13 通の返答があった（配布数 47 通、返答率 28%）。
主な意見として「農業用水への影響が心配である。」「自宅から見える位置であり、景観を害するおそれがあるため反対である。」といった意見があった。
最終処分場の必要性について 92%が必要性を認識（必ず必要、どちらかと言えば必要と回答）している。また、最終処分場建設に対する理解度は理解できる（どちらかと言えば理解できるも含む）割合が 54%、理解できない（どちらかと言えば理解できないも含む）が 46%であった。理解できない理由として自然環境、健康、災害、河川・地下水への影響を懸念している回答が多かった。</td></tr>
</table>

○：特筆すべき優位性、▲：対応可能な課題、×：対応困難な課題（今回の評価では対応困難な課題はなかった）

表 6　候補地の概要（候補地１２）

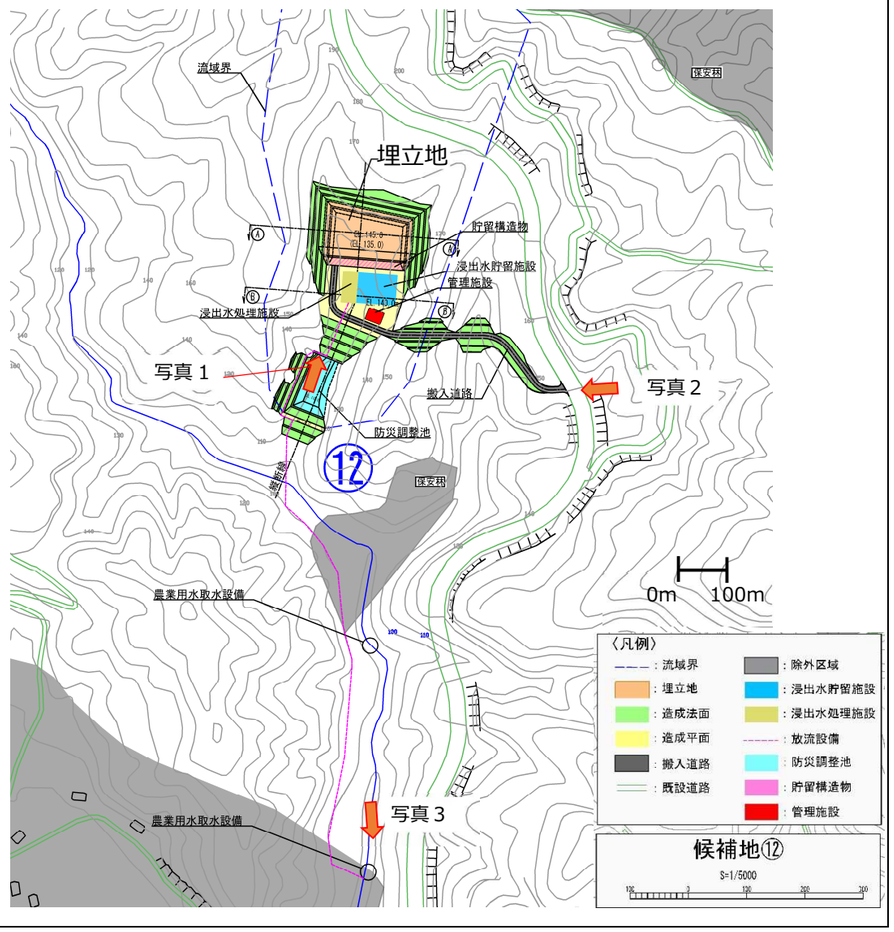
候補地 No.	１２	
所在地	美郷町西郷田代（和田若宮地区）	
候補地の位置・地形	位置	山地（丘陵地の谷部）
	地形	縦断勾配は緩いが、沢が細く左右岸の斜面が急である。北西の法面が盛土である。
土地利用状況	土地利用	植林地
	周辺民家	候補地南側 650m に集落が存在する。
	公共施設等	候補地の北側 3,160m に医療施設が存在する。
周辺道路状況	幹線道路	国道 388 号線
その他	候補地下流に農地が広がっている。	
現地状況写真	写真１：候補地内 写真２：搬入道路取付位置 写真３：取水位置 	
施設配置計画図		

表 7　総合評価（候補地１２　環境（周辺状況及び環境影響））

Ⅰ：環境		
周辺状況	土地利用	**丘陵地であり、周辺は植林地である。** • 標高 110～170m の丘陵地の谷部に位置している。周辺は植林地である。 • 下流に農地が広がっている。
	民家の存在	**候補地の近隣に民家は存在しない。** • 候補地南側 650m に集落が存在する。50 軒程度。
	公共施設	**候補地の近隣に公共施設は存在しない。** • 最も近い公共施設として候補地北側 3,160m に医療施設が存在する。公共施設までの距離は遠い。
	交通	**渋滞が起こる可能性は低いが、義務教育学校への通学路を廃棄物運搬車両が走行する。** • 供用後の廃棄物運搬車両の走行台数は 3 台／日と少なく、交通渋滞が発生する可能性は低い。 • 廃棄物運搬車両が西郷義務教育学校の通学路を走行する。（▲）
	景観	**幹線道路上から最終処分場が視認できる可能性がある。** • 幹線道路上から建築物（管理棟、浸出水処理施設）及び埋立地が視認できる可能性がある。（▲）
環境影響	自然環境	**最終処分場建設による影響は小さい。** •「生物情報収集・提供システム（環境省）」において希少野生動植物は確認されておらず、最終処分場建設による自然環境への影響は小さい。
	大気	**埋立作業や廃棄物運搬車両による大気質への影響は小さい。** • 大気質予測結果は、環境基準等を満足する。 • 現況からの増加分も少なく、最終処分場建設による影響は小さい。 項目 / 【最終処分場建設後の予測結果】近接する民家における濃度 / 参考基準等 降下ばいじん / 1.3 t/km^2/月 / 20 t/km^2/月 ※1 NOx / 現況 0.003ppm→建設後 0.003ppm / 0.04～0.06 ppm ※2 SPM / 現況 0.017mg/m^3→建設後 0.017mg/m^3 / 0.10 mg/m^3 ※3 ※1　「道路環境影響評価の技術手法　国土交通省国土技術政策総合研究所」にて示される、地域住民の中に不快、不健康感を訴える者が増加する目安の値。 ※2　１時間値の１日平均値が 0.04～0.06ppm のゾーン以内又はそれ以下という環境基準値。 ※3　１時間値の１日平均値が 0.10mg/m^3 以下という環境基準値。
	騒音振動	**埋立作業や廃棄物運搬車両による騒音振動への影響は小さい。** • 騒音振動の予測結果は参考基準等を満足する。 • 現況からの増加分も少なく、最終処分場建設による影響は小さい。 項目 / 【最終処分場建設後の予測結果】近接する民家における騒音振動レベル / 参考基準等 騒音（施設稼働） / 現況 50 dB→建設後 51 dB / 55 dB ※1 騒音（運搬車両） / 現況 50 dB→建設後 52 dB / 65 dB ※2 振動（施設稼働） / 現況 30 dB 未満→建設後 30 dB 未満 / 65 dB ※3 振動（運搬車両） / 現況 30 dB 未満→建設後 30 dB 未満 / 65 dB ※4 ※１　一般環境における環境基準値。B 地域の昼間の値。 ※２　B 地域のうち、２車線以上の斜線を有する道路に面する地域に係る昼間の環境基準値 ※３　振動規制法による特定工場・事業場の規制基準。第１種区域の昼間の基準値。 ※４　振動規制法による道路周辺の要請限度。第１種区域の昼間の値。
	悪臭	**埋立作業による悪臭の影響は小さい** • 悪臭が発生するような廃棄物を原則埋め立てない。 • 現処分場において悪臭の苦情は発生していないことから、次期広域最終処分場においても悪臭による影響は小さいと想定される。
	二酸化炭素排出量	**廃棄物運搬車両の走行による二酸化炭素排出量は少ない** • 廃棄物運搬車両の走行により、13.7t-CO_2/年の二酸化炭素排出となる。 • 美郷町全体では、39,000t-CO_2/年、そのうち、自動車の走行による排出量は 16,000t-CO_2/年となっており、同町内の全自動車走行に対して廃棄物運搬車両の走行による二酸化炭素排出量は少ない。
評　価	B	■主な課題 • 廃棄物運搬車両が西郷義務教育学校の通学路を走行する。 • 幹線道路から建築物（管理棟、浸出水処理施設）及び埋立地が視認できる可能性がある。

NOx:窒素酸化物のこと。大気汚染物質の一つであり、工場や車から排出される。
SPM：浮遊粒子状物質のこと。大気汚染物質の一つであり、大気中のすすや粉じん等を表す。

表 8　総合評価（候補地１２　環境（水）、防災、建設適性）

<table>
<tr><td colspan="4">Ⅰ：環境</td></tr>
<tr><td rowspan="2">水</td><td>河川水</td><td colspan="2">放流水による河川水質への影響は小さいが、河川水が農業用水として利用されているため、放流先に配慮する必要がある。
• 放流水による河川水質の予測結果は下表であり、現状から変動はなく影響が小さい。
<table><tr><td>項目</td><td>【最終処分場建設後の予測結果】
放流先河川</td><td>参考基準等※</td></tr><tr><td>BOD</td><td>現況 0.5mg/L→建設後 0.53mg/L</td><td>2 mg/L</td></tr><tr><td>SS</td><td>現況 1mg/L→建設後 1.07mg/L</td><td>25 mg/L</td></tr></table>※河川（A 類型）の環境基準値
• 河川水が農業用水として利用されており、放流先を取水箇所（埋立地から 0.8km 先）の下流にする等の配慮が必要である。（▲）</td></tr>
<tr><td>地下水</td><td colspan="2">周囲に水道水源は存在しない。
• 周辺に水道水源は存在しない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評　価</td><td>B</td><td>■主な課題
• 浸出水の放流先は農業用水の取水箇所を避ける必要がある。</td></tr>
<tr><td colspan="4">Ⅱ：防災</td></tr>
<tr><td rowspan="2">自然災害による影響</td><td>浸水想定区域</td><td colspan="2">候補地周辺は浸水想定区域に指定されていないが、運搬車両の走行ルートが過去に冠水している。
•候補地周辺は水害の浸水想定区域に含まれない。
•過去に廃棄物運搬車両の走行ルート（国道 327 号線）が冠水している。（▲）</td></tr>
<tr><td>土砂災害</td><td colspan="2">候補地周辺は土砂災害警戒区域等に指定されておらず、影響は小さい。
•候補地周辺に土砂災害警戒区域等は存在しない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評　価</td><td>B</td><td>■主な課題
• 冠水により、廃棄物運搬車両の走行ルートが浸水するおそれがある。（▲）</td></tr>
<tr><td colspan="4">Ⅲ：建設適性</td></tr>
<tr><td>造成の難易度</td><td colspan="3">盛土部が存在し造成形状よっては安定性が懸念される。
• 沢が細く、左右岸の斜面はやや急である。
• 北西の法面が盛土のため、造成形状によっては安定性が懸念される。（▲）</td></tr>
<tr><td>地質</td><td colspan="3">風化が厚く法面対策が必要となるとともに、掘削面により流れ盤となる可能性がある。
• 左岸側は強風化した表層部が厚く、法面対策が必要となる可能性がある。（▲）
• 掘削面により流れ盤になる可能性がある。（▲）</td></tr>
<tr><td>搬入道路</td><td colspan="3">搬入道路の取付の際に大きな造成が必要である。
• 幹線道路から約 220m の搬入道路の整備が必要となる。尾根、沢を横断するため、比較的大きな造成を要する。（▲）</td></tr>
<tr><td>幹線道路</td><td colspan="3">交差点の配置に伴い、国道 388 号線の拡幅工事等が必要となる可能性がある。
• 搬入道路取付部は国道 388 号線であり、曲線及び上り勾配の途中となっているため安全に進入するための拡幅工事等が必要となる可能性がある。（▲）</td></tr>
<tr><td>施工性</td><td colspan="3">流域面積が広く、規模の大きい雨水・転流対策が必要となる。
• 沢の縦断勾配は緩やかであり、場内での重機・工事車両走行ルートを確保することは比較的容易である。
• 流域面積が広いため、工事中の雨水・転流対策の規模が大きくなる。（▲）</td></tr>
<tr><td>埋立容量の確保</td><td colspan="3">必要な埋立容量を確保可能である。
• 地形的に埋立容量の確保は容易である。</td></tr>
</table>

BOD:生物化学的酸素要求量のこと。水質汚濁の指標であり、水の汚れを表す。
SS：浮遊物質量のこと。水質汚濁の指標であり、水の濁りを表す。

表 9　総合評価（候補地１２　建設適性、経済性、用地取得の見込み）

<table>
<tr><td colspan="4">Ⅲ：建設適性</td></tr>
<tr><td colspan="2">評価</td><td>D</td><td>■主な課題
• 北西の法面が盛土のため、造成形状によっては安定性が懸念される。
• 左岸側は強風化した表層部が厚く、法面対策が必要となる可能性がある。
• 掘削面により流れ盤になる可能性がある。
• 幹線道路から約 220m の搬入道路の整備が必要となる。尾根、沢を横断するため、比較的大きな造成を要する。
• 交差点の配置に伴い、幹線道路の拡幅工事等が必要となる可能性がある。
• 流域面積が広いため、工事中の雨水・転流対策が大きくなる。</td></tr>
<tr><td colspan="4">Ⅳ：経済性</td></tr>
<tr><td rowspan="3">事業費</td><td>概算工事費</td><td colspan="2">• 概算工事費は総計約 29.4 億円（埋立地 18.4 億円、浸出水処理施設 11.0 億円）となり、埋立容量 1m^3 あたり 5.2 万円である。</td></tr>
<tr><td>調　査　費</td><td colspan="2">• 調査費は測量調査、地質調査、生活環境影響調査業務等に係る費用で合計 2.0 億円である。</td></tr>
<tr><td>維持管理費</td><td colspan="2">• 維持管理費は埋立期間を 15 年として 21.7 億円である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評　価</td><td>C</td><td>•他の候補地と比較すると平均的な費用となる。（事業費合計 53.1 億円）</td></tr>
<tr><td colspan="4">Ⅴ：用地取得の見込み</td></tr>
<tr><td colspan="4">[住民説明会]
参加者は２地区合計 48 名であった（説明会対象者 171 名のうち、参加者 48 名、参加率 28%）。
住民説明会では「日向市が選定対象外となっていることが納得できない。少なくとも旧東郷町は選定の対象として選ばれてもよいと考える。」、「農業用水として河川水を取水している。最終処分場の建設により、水量が減少してしまうと農業に影響が出るため建設反対である」、「河川環境を汚してしまうことが心配である。20 年程前に養鶏場を建設する計画があったが、地元住民の反対で建設に至らなかった。」、「工事中の濁水対策をしっかりと行ってほしい。」等の意見があった。得られた意見に対して、「過去の協議により、日向市全体が選定対象外となっている」、「最終処分場の運用にあたって河川水を利用することはない」、「浸出水の処理を確実に実施し、適切に管理を行う」等を回答しているが、一部住民の理解を得ることはできなかった。
[アンケート調査]
各世帯にアンケート調査を実施し、44 通の返答があった（配布数 171 通、返答率 26%）。
アンケートの結果では、「農業に影響があるのであれば反対である」「自然環境の良さをアピールして定住者を呼び込んでいるので、イメージダウンになることはやめてほしい」、「家の近くにできることと信じられない」といった意見があった。
最終処分場の必要性について 98%が必要性を認識（必ず必要、どちらかと言えば必要と回答）している。また、最終処分場建設に対する理解度は理解できる（どちらかと言えば理解できるも含む）割合が 60%、理解できない（どちらかと言えば理解できないも含む）が 40%であった。理解できない理由として河川・地下水への影響を懸念している回答が多かった。</td></tr>
</table>

○：特筆すべき優位性、▲：対応可能な課題、×：対応困難な課題（今回の評価では対応困難な課題はなかった）

表 １０　候補地の概要（候補地１８）

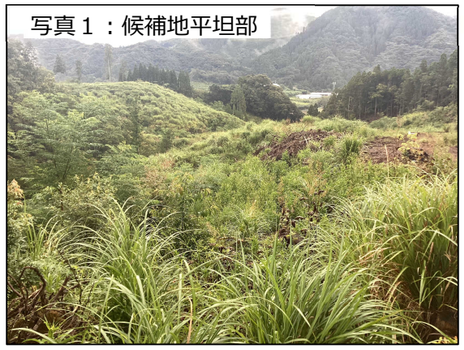
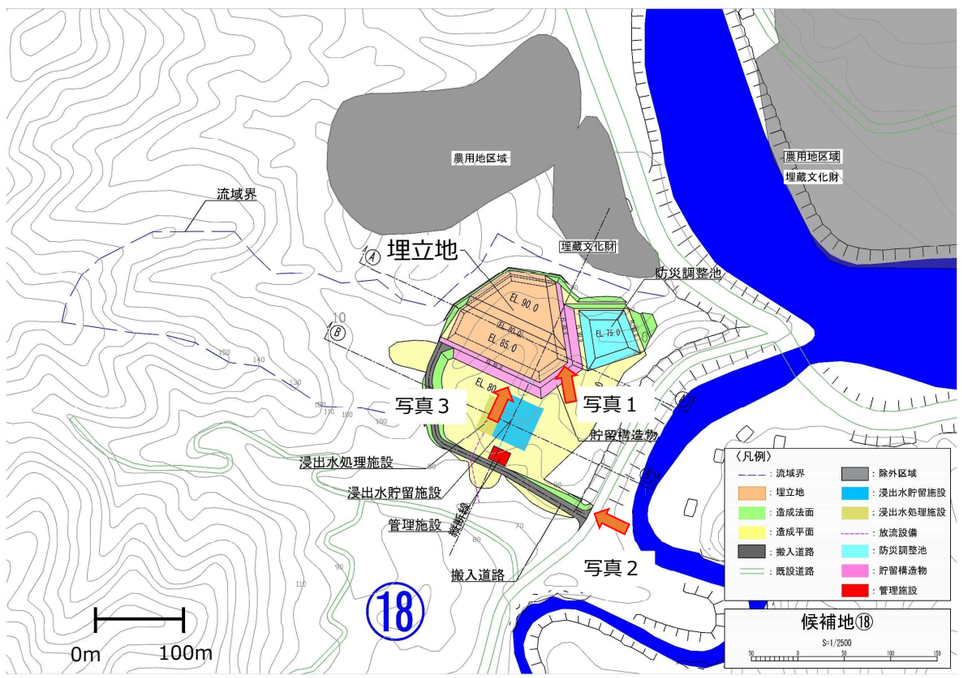
候補地 No.	１８	
所在地	美郷町西郷田代（花水流地区）	
候補地の位置・地形	位置	美郷町西郷田代
	地形	開けた平坦部があり、全体的に傾斜は緩い地形である。
土地利用状況	土地利用	荒地（丘陵地）
	周辺民家	候補地東側 250m に集落が存在する。 最も近接する民家は北側 150m に存在する。
	公共施設等	候補地の北西 2,230m に教育施設が存在する。
周辺道路状況	幹線道路	国道 327 号線
現地状況写真	写真１：候補地平坦部  写真２：搬入道路取付位置 写真３：候補地全景 	
施設配置計画図		

表 １１　総合評価（候補地１８　環境（周辺状況及び環境影響））

Ⅰ：環境		
周辺状況	土地利用	**丘陵地であり、周辺は植林地である。** • 標高 70～100m の丘陵地である。候補地内及びその周辺は植林地となっている。
	民家の存在	**候補地に近接して民家が存在する。** • 候補地東側 250m に集落が存在する。15 軒程度。 • 最も近接する民家は北側 150m に存在する。（▲）
	公共施設	**候補地の近隣に公共施設は存在しない。** • 最も近い公共施設として候補地北西側 2,230m に教育施設が存在する。公共施設までの距離は遠い。
	交通	**廃棄物運搬車両の走行による影響は小さい。** • 廃棄物運搬車両の走行台数は 3 台／日と少なく、交通渋滞が発生する可能性は低い。 • 走行ルート上に通学路は存在しない。
	景観	**幹線道路上から最終処分場が視認できる可能性がある。** • 幹線道路から建築物（管理棟、浸出水処理施設）が視認できる可能性がある。（▲）
環境影響	自然環境	**最終処分場建設による影響は小さい。** •「生物情報収集・提供システム（環境省）」において希少野生動植物は確認されておらず、最終処分場建設による自然環境への影響は小さい。
	大気	**埋立作業や廃棄物運搬車両による大気質への影響は小さい。** • 大気質予測結果は、環境基準等を満足する。 • 現況からの増加分も少なく、最終処分場建設による影響は小さい。

項目	【最終処分場建設後の予測結果】 近接する民家における濃度	参考基準等
降下ばいじん	4.5 t/km^2/月	20 t/km^2/月 ※1
NOx	現況 0.003ppm→建設後 0.003ppm	0.04～0.06 ppm ※2
SPM	現況 0.017mg/m^3→建設後 0.017mg/m^3	0.10 mg/m^3 ※3

※1　「道路環境影響評価の技術手法　国土交通省国土技術政策総合研究所」にて示される、地域住民の中に不快、不健康感を訴える者が増加する目安の値。
※2　1 時間値の 1 日平均値が 0.04～0.06ppm のゾーン以内又はそれ以下という環境基準値。
※3　1 時間値の 1 日平均値が 0.10mg/m^{3}以下という環境基準値。

環境影響	騒音振動	**埋立作業や廃棄物運搬車両による騒音振動への影響は小さい。** • 騒音振動の予測結果は参考基準等を満足する。 • 現況からの増加分も少なく、最終処分場建設による影響は小さい。

項目	【最終処分場建設後の予測結果】 近接する民家における騒音振動レベル	参考基準等
騒音（施設稼働）	現況 50 dB→建設後 54 dB	55 dB ※1
騒音（運搬車両）	現況 50 dB→建設後 53 dB	65 dB ※2
振動（施設稼働）	現況 30 dB 未満→建設後 30 dB 未満	65 dB ※3
振動（運搬車両）	現況 30 dB 未満→建設後 30 dB 未満	65 dB ※4

※１　一般環境における環境基準値。B 地域の昼間の値。
※２　B 地域のうち、2 車線以上の斜線を有する道路に面する地域に係る昼間の環境基準値
※３　振動規制法による特定工場・事業場の規制基準。第１種区域の昼間の基準値。
※４　振動規制法による道路周辺の要請限度。第１種区域の昼間の値。

環境影響	悪臭	**埋立作業による悪臭の影響は小さい。** • 悪臭が発生するような廃棄物を原則埋め立てない。 • 現処分場において悪臭の苦情は発生していないことから、次期広域最終処分場においても悪臭による影響は小さいと想定される。
	二酸化炭素排出量	**廃棄物運搬車両の走行による二酸化炭素排出量は少ない。** • 廃棄物運搬車両の走行により、10.8t-CO2/年の二酸化炭素排出となる。 • 美郷町全体では、39,000t-CO2/年、そのうち、自動車の走行による排出量は 16,000t-CO2/年となっており、同町内の全自動車走行に対して廃棄物運搬車両の走行による二酸化炭素排出量は少ない。
評　価	B	■主な課題 • 民家が近接して存在している。 • 搬入道路から建築物（管理棟、浸出水処理施設）が視認できる可能性がある。

NOx:窒素酸化物のこと。大気汚染物質の一つであり、工場や車から排出される。
SPM：浮遊粒子状物質のこと。大気汚染物質の一つであり、大気中のすすや粉じん等を表す。

表 １２　総合評価（候補地１８　環境（水）、防災、建設適性）

<table>
<tr><th colspan="4">Ⅰ：環境</th></tr>
<tr><td rowspan="2">水</td><td>河川水</td><td colspan="2">農業利用の状況も確認されず、放流水による河川水質への影響は小さい。
• 候補地直下流で農業用水としての利用は確認されない。（〇）
• 放流水による河川水質の予測結果は下表であり、現状から変動はなく影響が小さい。
<table><tr><th>項目</th><th>【最終処分場建設後の予測結果】
放流先河川</th><th>参考基準等</th></tr><tr><td>BOD</td><td>現況 0.5mg/L→建設後 0.53mg/L</td><td>2 mg/L</td></tr><tr><td>SS</td><td>現況 13mg/L→建設後 12.7mg/L</td><td>25 mg/L</td></tr></table>※河川（A 類型）の環境基準値</td></tr>
<tr><td>地下水</td><td colspan="2">周囲に水道水源は存在しない。
• 周辺に水道水源は存在しない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評　価</td><td>A</td><td>■特筆すべき優位性
• 候補地の直下流で農業用水として取水している状況は確認されず、放流水の影響は小さい。</td></tr>
<tr><th colspan="4">Ⅱ：防災</th></tr>
<tr><td rowspan="2">自然災害による影響</td><td>浸水想定区域</td><td colspan="2">候補地周辺は浸水想定区域に指定されていないが、運搬車両の走行ルートが過去に冠水している。
•候補地周辺は水害の浸水想定区域に含まれない。
•過去に廃棄物運搬車両の走行ルート（国道 327 号線）が冠水している。（▲）</td></tr>
<tr><td>土砂災害</td><td colspan="2">候補地周辺は土砂災害警戒区域等に指定されておらず、影響は小さい。
•候補地周辺に土砂災害警戒区域等は存在しない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評　価</td><td>B</td><td>■主な課題
• 冠水により、廃棄物運搬車両の走行ルートが浸水するおそれがある。（▲）</td></tr>
<tr><th colspan="4">Ⅲ：建設適性</th></tr>
<tr><td colspan="2">造成の難易度</td><td colspan="2">斜面の傾斜は緩く、造成は容易である。
• 全体的に傾斜は緩く造成は容易である。3か所の沢があり、全ての沢の傾斜は緩やかである。
• 流域が狭いため、防災調整池の規模が小さくなる。</td></tr>
<tr><td colspan="2">地質</td><td colspan="2">掘削時の湧出水処理が必要である。
• 谷部の斜面において湧水が確認されたことから、掘削を行った場合の湧水処理が必要となる可能性がある。（▲）
• 火砕流堆積物を基盤としている。</td></tr>
<tr><td colspan="2">搬入道路</td><td colspan="2">既設道路があり、搬入道路の整備は容易である。
• 幹線道路から 100m 程度の搬入道路の整備が必要となる。すでに道路が整備されており、改良を行う程度で取付可能である。（〇）</td></tr>
<tr><td colspan="2">幹線道路</td><td colspan="2">幹線道路の整備は必要ない。
• 幹線道路は道路幅が確保されており、交通量も少ない。</td></tr>
<tr><td colspan="2">施工性</td><td colspan="2">平場が広く作業エリアを確保しやすい。工事車両の進入も容易である。
• 平場の確保が容易であり、作業エリアを確保しやすい。（〇）
• 沢の縦断勾配は緩やかであり重機、工事車両の走行ルート確保は容易である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">埋立容量の確保</td><td colspan="2">必要な埋立容量を確保可能である。
• 埋立容量の確保は容易である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評　価</td><td>A</td><td>■特筆すべき優位性
• 既存の搬入道路を活用可能である。
• 作業エリアを広く確保でき、施工性が良い。
■主な課題
• 谷部の掘削の際に湧水処理が必要となる可能性がある。</td></tr>
</table>

BOD:生物化学的酸素要求量のこと。水質汚濁の指標であり、水の汚れを表す。
SS：浮遊物質量のこと。水質汚濁の指標であり、水の濁りを表す。

表 １３　総合評価（候補地１８　経済性、用地取得の見込み）

<table>
<tr><th colspan="3">Ⅳ：経済性</th></tr>
<tr><td rowspan="3">事業費</td><td>概算工事費</td><td>• 概算工事費は総計約 26.9 億円（埋立地 15.9 億円、浸出水処理施設 11.0 億円）となり、埋立容量 1m^3 あたり 4.7 万円である。</td></tr>
<tr><td>調査費</td><td>• 調査費は測量調査、地質調査、生活環境影響調査業務等に係る費用で合計 1.5 億円である。</td></tr>
<tr><td>維持管理費</td><td>• 維持管理費は埋立期間を 15 年として 21.1 億円である。</td></tr>
<tr><td colspan="2">評　価</td><td>C　• 他の候補地と比較すると平均的な金額である。（事業費合計 49.5 億円）</td></tr>
<tr><th colspan="3">Ⅴ：用地取得の見込み</th></tr>
<tr><td colspan="3">[住民説明会]
参加者は 30 名であった（説明会対象者 70 名のうち、参加者 30 名、参加率 43%）。
住民説明会では「埋立終了後の管理もしっかり行ってほしい」、「選定に係るプロセス（協議会含む）はできる限り公表してほしい」、「住民向けアンケート結果を候補地選定に係る評価の１つとしてほしい」、「地域振興策を行うのか」等の意見があった。
得られた意見に対して、「広域連合や構成市町村のホームページで公開する。アンケート調査結果の評価についても会議録でわかるようにする」、「地域振興策は最終候補地が選定された後に、該当地区と協議を行いたい」等を回答しており、回答に対して理解を得ることができた。
[アンケート調査]
各世帯にアンケート調査を実施し、21 通の返答があった（配布数 70 通、返答率 30%）。
アンケートの結果では、情報開示をしっかりと行ってほしい、建設時の残土処分について意見があった。最終処分場の必要性について 100%が必要性を認識（必ず必要、どちらかと言えば必要と回答）している。また、最終処分場建設に対する理解度は理解できる（どちらかと言えば理解できるも含む）割合が 91%、理解できない（どちらかと言えば理解できないも含む）が 9%であった。理解できない理由として自然環境、災害等への影響を懸念している回答があった。</td></tr>
</table>

〇：特筆すべき優位性、▲：対応可能な課題、×：対応困難な課題（今回の評価では対応困難な課題はなかった）

〇：特筆すべき優位性、▲：対応可能な課題、×：対応困難な課題（今回の評価では対応困難な課題はなかった）

表 １４　総合評価の比較

評価項目			候補地 3 門川町大字門川尾末（竹名地区）		候補地 12 美郷町西郷田代（和田若宮地区）		候補地 18 美郷町西郷田代（花水流地区）	
Ⅰ：環境	周辺状況及び環境影響	周辺状況（土地利用、民家の存在、公共施設、交通、景観）	▲ホタル生育のための溜池に対して代替地の検討等の配慮が必要である。 ▲廃棄物運搬車両が小学校の横を走行する。	B	▲廃棄物運搬車両が義務教育学校の通学路を走行する。 ▲搬入道路から建築物（管理棟、浸出水処理水施設）、埋立地が視認できる可能性がある。	B	▲搬入道路から建築物（管理棟、浸出水処理水施設）が視認できる可能性がある。 ▲民家までの距離が 150m と短い。	B
		環境影響（自然環境、大気、騒音振動、悪臭、二酸化炭素排出量）	▲候補地周辺に希少野生動物が生息する可能性があり、建設時に配慮が必要である。		現在の環境に大きな影響を与えるような課題はない		現在の環境に大きな影響を与えるような課題はない	
	水	河川	▲候補地直下流の河川が農業用水として利用されており、放流先（1,000m下流）及び水質に配慮する必要がある。	B	▲候補地直下流の河川が農業用水として利用されており、放流先（800m下流）及び水質に配慮する必要がある。	B	○候補地直下流の河川で農業用水として取水をしている状況は確認できない。	A
		地下水	水道水源としての利用はない。		水道水源としての利用はない。		水道水源としての利用はない。	
Ⅱ：防災	自然災害による影響	浸水想定区域	▲過去に廃棄物運搬車両の走行ルートが冠水した記録がある。	B	▲過去に廃棄物運搬車両の走行ルートが冠水した記録がある。	B	▲過去に廃棄物運搬車両の走行ルートが冠水した記録がある。	B
		土砂災害警戒区域	候補地周辺は土砂災害警戒区域外であり、特に課題はない		候補地周辺は土砂災害警戒区域外であり、特に課題はない		候補地周辺は土砂災害警戒区域外であり、特に課題はない	
Ⅲ：建設適性	造成の難易度		▲左岸側斜面がやや急であり、法面が大きくなる。	C	▲盛土部が存在し造成形状によっては安定性が懸念される。	D	斜面の傾斜は緩く、造成は容易である。	A
	地質		▲埋立地や搬入道路の北～北西向きの掘削面は流れ盤になるため、法面対策が必要となる可能性がある。		▲搬入道路の北向きの掘削面が流れ盤となるため、法面対策が必要となる可能性がある。 ▲左岸側は風化が深いことが想定され、対策が必要となる可能性がある。		▲谷部の斜面部を掘削する際、湧出水処理が必要となる可能性がある。	
	搬入道路		▲道路延長が長く、大規模な造成が必要である。 ▲道路法面が流れ盤となる可能性がある。		▲道路延長が長く、大規模な造成が必要である。		○既設道路があり、搬入道路を容易に整備できる。	
	幹線道路		道路幅が確保されており、整備の必要はない。		▲国道において、最終処分場に進入するための車線の拡張工事が必要となる可能性がある。		道路幅が確保されており、整備の必要はない。	
	施工性		▲工事中の雨水・転流対策が大規模となる。		▲工事中の雨水・転流対策が大規模となる。		○平場が広く作業エリアを確保しやすい。工事車両の進入も容易である。	
	埋立容量の確保		必要な埋立容量を確保することができる。		必要な埋立容量を確保することができる。		必要な埋立容量を確保することができる。	
Ⅳ：経済性	事業費	概算工事費	概算工事費 30.5 億円【54,000 円/m^3】 （埋立地 21.5 億円、浸出水処理水施設 9.0 億円）	C	概算工事費 29.4 億円【52,000 円/m^3】 （埋立地 18.4 億円、浸出水処理水施設 11.0 億円）	C	概算工事費 26.9 億円【47,000 円/m^3】 （埋立地 15.9 億円、浸出水処理水施設 11.0 億円）	C
		調査費	調査費　　2.0 億円		調査費　　2.0 億円		調査費　　1.5 億円	
		維持管理費	維持管理費 19.4 億円（埋立期間：15 年間）		維持管理費 21.7 億円（埋立期間：15 年間）		維持管理費 21.1 億円（埋立期間：15 年間）	
		合計	51.9 億円		53.1 億円		49.5 億円	
得点			**32.5 点**/50.0 点		**30.0 点**/50.0 点		**40.0 点**/50.0 点	
Ⅴ：用地取得の見込み（住民説明会及びアンケート結果）			• 説明会では農業に対する影響、大雨等の災害による影響を懸念する意見が多かった • 説明会の場において、建設反対の意思を示した住民がいた。 • アンケート調査結果では、最終処分場建設に対して 54%が理解を示している。		• 説明会では農業に対する影響を懸念する意見が多かった。 • 説明会の場において、建設反対の意思を示した住民がいた。 • アンケート調査結果では、最終処分場建設に対して 60%が理解を示している。		• 説明会では候補地の選定プロセスについての意見が多かった。 • 説明会の場において、建設反対の意思を示している住民はいなかった。 • アンケート調査結果では、最終処分場建設に対して 91%が理解を示している。	
総合評価			下流の水田、ホタルへの配慮等、環境面で課題がある。また、建設適性に関しては、流れ盤の法面対策が必要である等、課題が複数存在する。経済性については、他の候補地と同等の事業費となる。用地取得の見込みに関して、農業や災害の懸念があり、反対意見も見られる。		環境面、防災面に関して、課題が少ない候補地である。建設適性に関しては、流れ盤の法面対策が必要であり、搬入道路、幹線道路の取付の難易度が高い等、全体的に課題が多い。経済性については、他の候補地と同等の事業費となる。用地取得の見込みに関して、農業への懸念があり、反対意見も見られる。		環境面、防災面、建設適性、経済性のどの項目も課題が少ない候補地である。 少数ではあるが、アンケート調査結果において河川等への影響を懸念した反対意見も見られる。	
最終候補地の選定			Ⅰ～Ⅳまでの得点は、候補地１８が最も高く、全体的に大きな課題はなく、特に建設適性は他の候補地に比べて優位である。 また、住民説明会及びアンケート調査結果から、最終処分場整備に対してある程度の理解は得られていると考えられる。 以上より、候補地１８を最終候補地として選定する。					

○：特筆すべき優位性、▲：対応可能な課題、×：対応困難な課題（今回の評価では対応困難な課題はなかった）
A ：10 点、B：7.5 点、C：5 点、D：2.5 点、E：0 点